



東邦大学メディアセンターの 即時OA義務化に向けた取り組み

第27回図書館総合展「OA義務化、悩んで当然。だからシェアするリポジトリの試行錯誤」

期日:2025年10月23日(木)

会場:パシフィコ横浜 図書館総合展フォーラム第6会場

登壇者:渡辺爽(東邦大学医学メディアセンター)

アウトライン

- 対応開始まで
 - 学内プロジェクトの発足
 - 対応方針の検討
 - ロードマップ
 - 学内への説明
- 実際の対応プロセス
 - 研究者の作業フロー
 - 人員体制
 - 登録担当者の作業フロー(著者最終稿の登録, 研究データの登録)
- 雑感



対応開始まで

2



学内プロジェクトの発足

- 2025年1月 日本学術振興会「令和7年度における制度改正事項について」

研究データの管理・利活用に当たっての留意点

【公開するデータ・提出するメタデータの対象】

- 論文の根拠データは原則公開（※）。その他、研究開発の成果としての研究データについても可能な範囲で公開することが望されます。

※「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」に基づく根拠データは令和7年4月以降に新たに行なう公募から即時オープンアクセスが義務付けられています（P.22参照）

メタデータ	A1 B1	公開	A2 B2	共有	A3 B3非共有 B4 B5非共有 B6非共有 非公開
管理対象データ		非公開		非公開	非公開

DMPの作成対象はすべて
提出対象

【管理・利活用に当たっての留意点】

- 研究データは、オープン・アンド・クローズ戦略に基づき管理・利活用を行ってください。
- 研究分野等の特性や、データを管理する組織の特性に配慮して、「公開」、「共有」又は「非共有・非公開」の判断が行われる必要があります。

論文の根拠データは原則公開

研究データの管理・利活用について

我が国での研究開発活動の自律性の確保と国際的なオープンサイエンス推進の観点から、研究データの戦略的な保存・管理の取組とともに、研究成果のより幅広い活用が求められています。

令和3年4月に「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」（統合イノベーション戦略推進会議）が策定され、公募型の研究資金の全ての新規公募分について、研究データの管理・利活用を図るため、DMP及びこれと連動したメタデータ付与を行う仕組みを2023年度までに導入することとなりました。

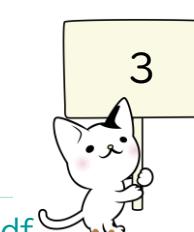
令和6年度から原則全種目（※）において、

- 研究開始にあたり、研究代表者にDMP（データマネジメントプラン）作成を求めます。
(交付申請時に提出は不要)
- 実績報告書・実施状況報告書において、科研費により生み出され、公開した研究データに関する情報（メタデータ等）の提出を求めます。

※ 対象種目
特別推進研究、学術変革領域研究（A・B）、基盤研究（S・A・B・C）、挑戦的研究（開拓・萌芽）、若手研究、研究活動スタート支援、特別研究促進費、特別研究員奨励費、国際先導研究、国際共同研究強化、海外連携研究、帰国発展研究

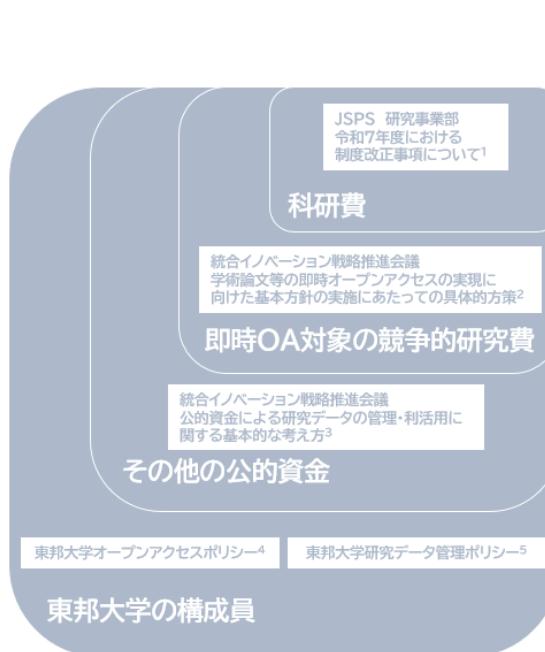
公開した研究データのメタデータ提出

- 対応方針の検討をスタート → 3月に「オープンサイエンス推進プロジェクト」と命名
 - オープンサイエンス推進の担当教員（兼任1名）
 - メディアセンター（兼任3名）
 - 学事統括部（兼任2名 + 専任1名）



対応方針の検討

- 2025年2月 本学の研究者に求められることを「即時OA義務化」と「研究公正」の観点で整理
- 特に研究データについては、本学ポリシーも参照しながら管理・保存ルールを含めて広く検討



当時のメモ（「いつ」「誰が」「何を」する？）

論文

- 実績報告書に、発表した雑誌論文情報を入力する。
- 査読付き学術論文（著者最終稿を含む）を、
掲載後、即時に「機関リポジトリ等の情報基盤」に
掲載する。
- 資金配分機関に対する毎年度の実績報告時に、即時オープンアクセスの実施状況を記載する。
- 学術雑誌等で発表の研究成果を、いずれかで公開
 - ① 東邦大学学術リポジトリ
 - ② オープンアクセスジャーナルへの掲載
 - ③ OAオプションで出版社webサイトに掲載
 - ④ 外部のリポジトリ等での公開

研究データ

- 実績報告書に、公開した論文根拠データの
メタデータ情報を入力する。
- 研究開発の成果としての研究データがあれば、
可能な範囲でメタデータ情報を入力する。
- 査読付き学術論文に紐づく根拠データを、
掲載後、即時に「機関リポジトリ等の情報基盤」に
掲載する。
- 所属機関のデータポリシーや公募型の研究資金
における資金配分機関の基準等に基づき、
 - 管理対象データの範囲を定める
 - メタデータを付与し、
NII RDC上で検索可能になるよう登録する
- 法令や学内外の規定を遵守し、研究データを
適切に保存・管理する。その際、機械可読性や
相互運用性に配慮して、利活用促進に努める。
- 大学は研究データの保存・管理及び利活用促進を
支援する環境の整備を推進する

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

インデックスツリー

- ▶ 東邦医学会雑誌
- ▶ Toho Journal of Medicine
- ▶ 東邦看護学会誌
- ▶ 東邦大学教養紀要
- ▶ 東邦大学健康科学ジャーナル
- ▶ 東邦大学教職教育研究
- ▷ 雜誌掲載論文 **既存のものを活用**
- ▷ 研究データ **新規作成**
- ▶ 学位論文
- ▶ 医学部生執筆論文
- ▷ 藤田文庫（和漢古医書コレクション）
- ▷ 医学メディアセンター年次報告
- ▶ 東邦大学海藻データベース
- ▷ リポジトリ公開SAMPLE

研究データの登録・公開準備



ロードマップ

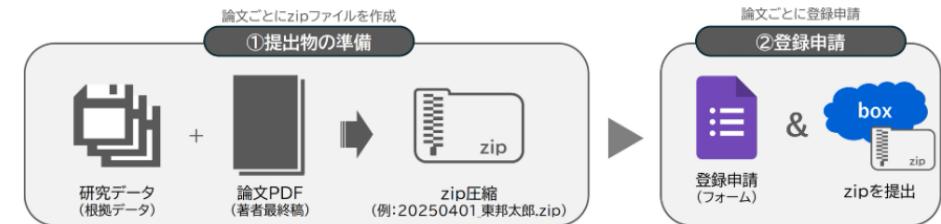
- 要配慮データを含む「臨床研究」と、その他の「非臨床研究」とに分け、段階的に対応する
- 公的研究費による研究成果物を対象

カテゴリ	成果物	2024年度	2025年度	2026年度
非臨床研究	 研究データ		公開	
	 論文(著者最終稿)		公開	
臨床研究	 研究データ			 公開 <small>※即時OA対象の「公表を前提としたデータ」</small>
	 論文(著者最終稿)			 公開
		2024年度 科研費実績報告書 学内〆切 (公開した研究データのメタデータ提出)		
				研究成果の即時OA義務化 (目安)
				5

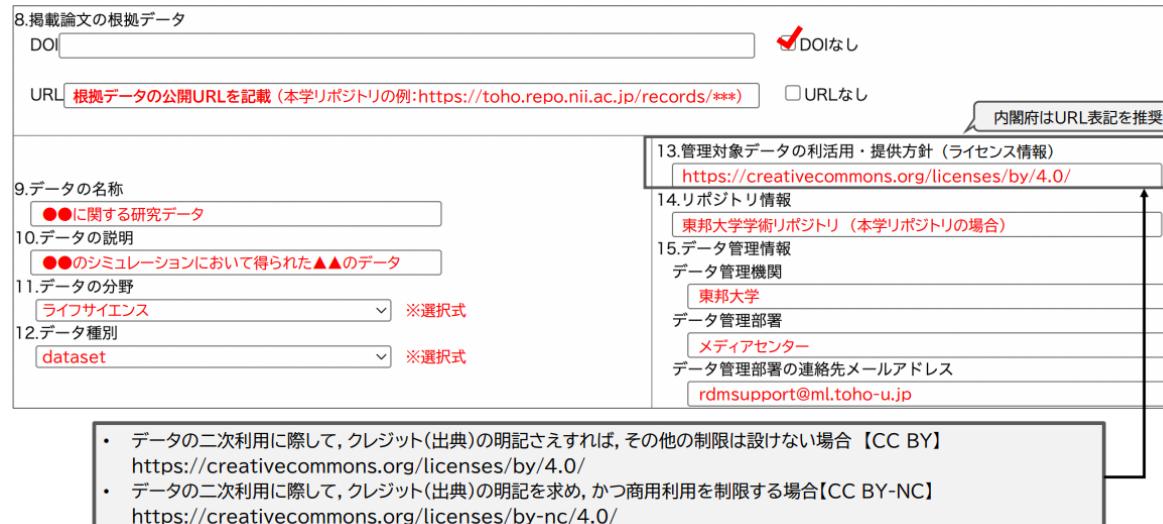
※ 研究データのうち、要配慮データについてはリポジトリ上では公開しない。ただし研究公正の観点からGakuNin RDMで保存・管理する方針。

学内への説明

- 2025年3月 研究データ管理セミナーI 開催
- 2025年4月 研究データ管理セミナーII 開催



リポジトリ登録申請の手順



8.掲載論文の根拠データ
DOI
URL 根拠データの公開URLを記載 (本学リポジトリの例:<https://toho.repo.nii.ac.jp/records/>***) DOIなし URLなし
内閣府はURL表記を推奨

9.データの名称
●●に関する研究データ

10.データの説明
●●のシミュレーションにおいて得られた▲▲のデータ

11.データの分野
ライフサイエンス ※選択式

12.データ種別
dataset ※選択式

13.管理対象データの利活用・提供方針 (ライセンス情報)
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>

14.リポジトリ情報
東邦大学学術リポジトリ (本学リポジトリの場合)

15.データ管理情報
データ管理機関
東邦大学
データ管理部署
メディアセンター
データ管理部署の連絡先メールアドレス
rdmsupport@ml.toho-u.jp

• データの二次利用に際して、クレジット(出典)の明記さえすれば、その他の制限は設けない場合【CC BY】
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>
• データの二次利用に際して、クレジット(出典)の明記を求め、かつ商用利用を制限する場合【CC BY-NC】
<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/>

科研費実施報告書の変更点・入力のしかた

→ 特設サイト開設、リポジトリへの研究成果物(論文・研究データ)登録を開始



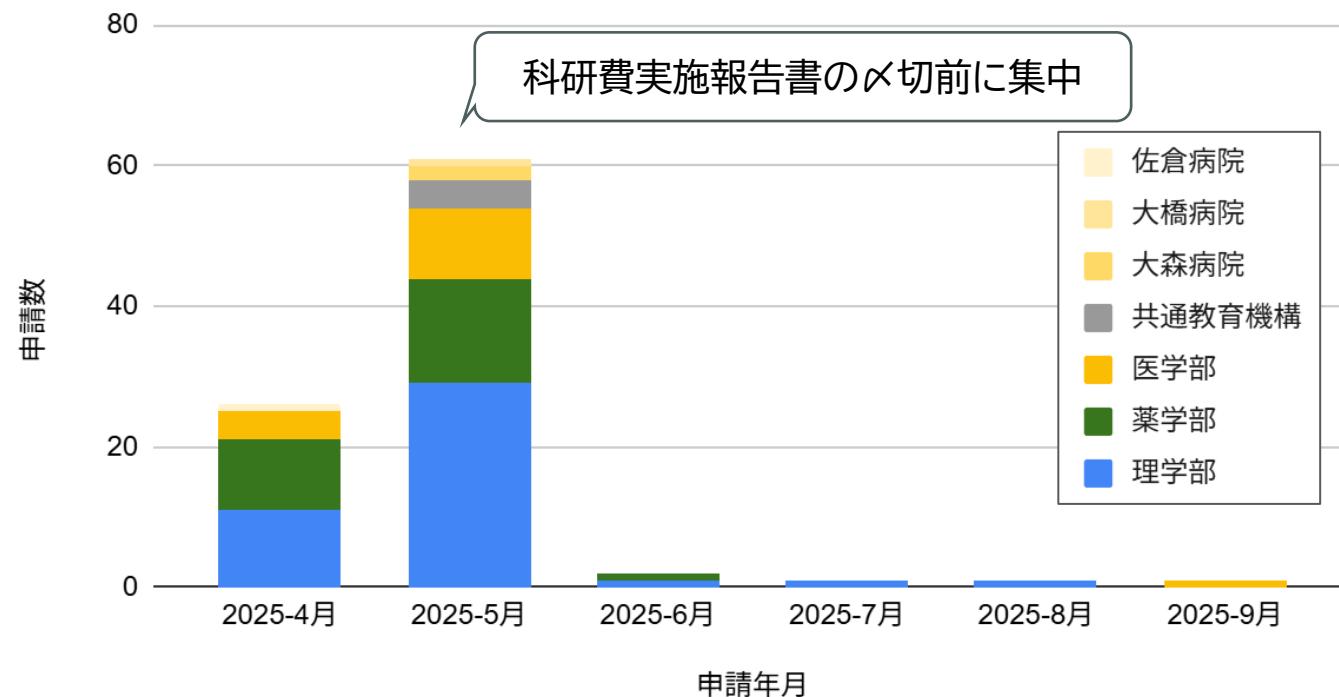
ライセンスとは



対応実績(2025年9月末時点)

- 論文(著者最終稿) : 28件登録
- 研究データ(根拠データ) : 74件登録

研究成果物の登録申請数推移



7

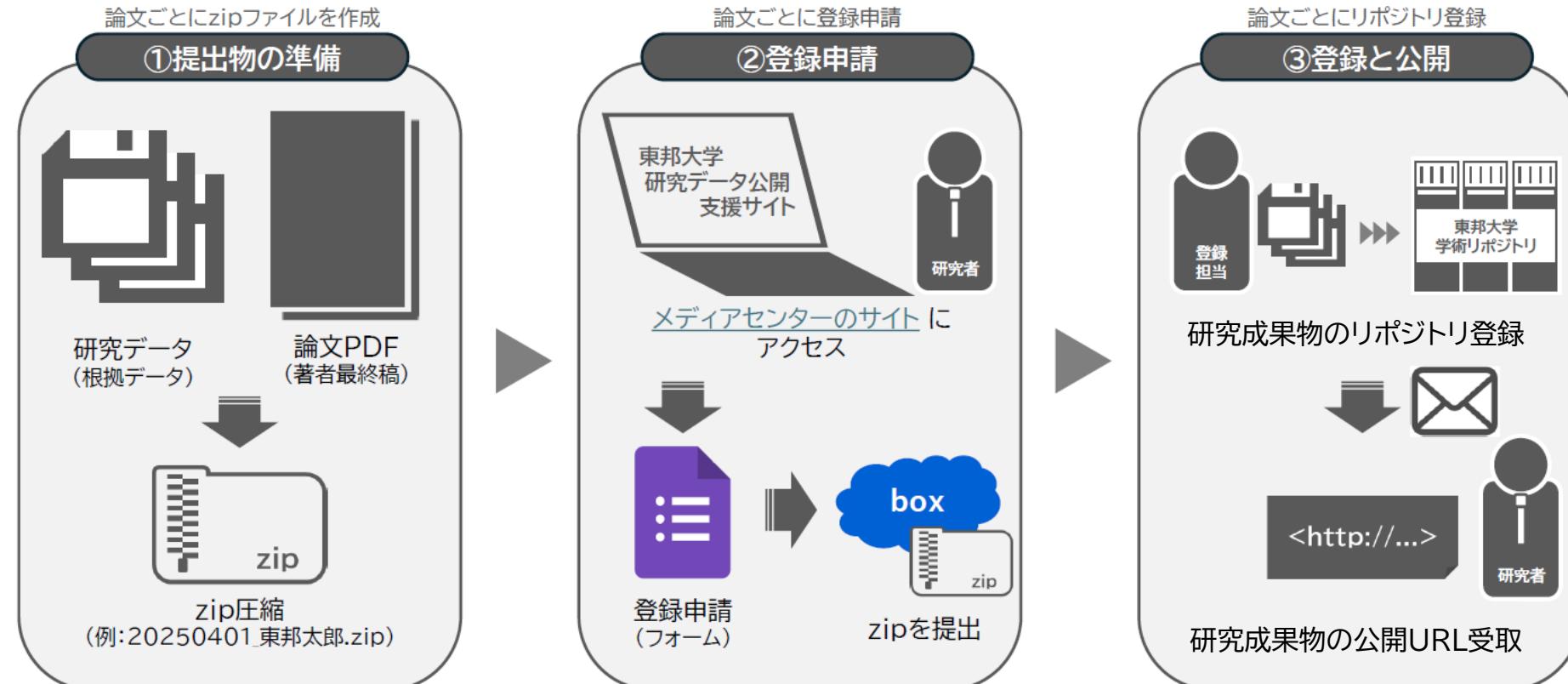


実際の対応プロセス



研究者の作業フロー

- 論文の責任著者が対応
- 場合分けを設けず、一律で「著者最終稿」「研究データ(根拠データ)」の提出を求めている



ファイルを提出すると、公開URLが返ってくる



(参考)申請フォームのイメージ

- 「申請者」および「研究成果物」の情報を収集する、シンプルなフォーム

論文の情報 *

著者名、論題、雑誌名、巻号、ページ、出版年、DOI等の論文情報を記載してください
(巻号やページ等が未定の場合、未定項目の記載は不要です)。

回答を入力

論文の書誌事項は自由記述式(特定できればOK)

臨床情報を含む根拠データの除外 *

令和7年5月現在、個人に紐づく臨床情報にあたる根拠データは東邦大学学術リポジトリで公開できません。そのような根拠データは提出しないようお願いいたします。

提出した根拠データには、個人に紐づくヒト由来の臨床情報やサンプル（市販されていて容易に手に入るヒト由来の細胞を用いたデータは除く）を含んでいません

通信欄（何かあればお知らせください）
例) ●月●日までに公開を済ませたいなど

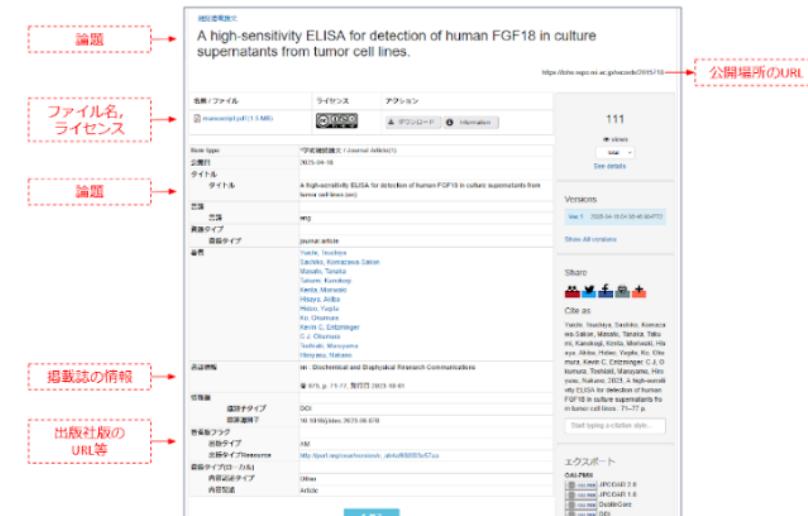
回答を入力

要配慮データを含まないことを確認

論文について

論文の情報をお知らせください。APCを支払いオープンアクセスにした論文を除き、著者最終稿をリポジトリで登録（公開）いたします。

東邦大学学術リポジトリで公開した論文のイメージ
(記載項目および提出ファイルの情報を参照し、画像のように情報を記載します。)

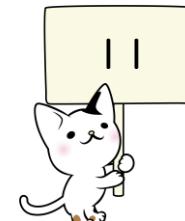


リポジトリ上で公開イメージを説明



人員体制

- ・メインの運用担当者は3名
リポジトリ登録の実務担当1名(専任・再雇用・週3勤務) + その他の庶務担当2名(兼任)
└ 運用フロー設計, マニュアル整備, 問い合わせ対応, 広報
- ・イレギュラーや相談事項があれば, 都度「オープンサイエンス推進プロジェクト」で協議



登録担当者の作業フロー(著者最終稿のリポジトリ登録)

- 申請から1週間を目途に対応

- ① 登録申請の受付 : Googleフォームで申請受付, 学内クラウドストレージで提出物確認
- ② 著者最終稿の内容チェック : 申請情報との一致, **著者最終稿であること**, 図表に欠けがないこと
- ③ 論文の書誌事項の確認 : **DOI**, 論題, 著者, 雑誌名, 卷号ページ, **出版日**, etc…
- ④ ポリシーの調査 : 登録担当+庶務担当でダブルチェック(→詳細は次ページ)
- ⑤ 著者最終稿の登録 : JAIRO Cloudの「メタデータ自動入力」機能を活用
- ⑥ 申請者への完了通知 : 公開URL, 登録完了日, エンバーゴ設定の説明 <テンプレートあり>

東邦大学学術リポジトリへの【根拠データ】登録申請フォーム



	A	B	C		
1	タイムスタンプ	メールアドレス	申請者氏名(必ず根拠データ必須)	進捗を入力	公開URLをペースト
2	2025/03/29 12:29:26	tes	東邦 太郎	進捗管理(り完了)	公開URL
3	2025/03/31 0:00:00	***@mnc.toho-u.ac.jp		公開URL通知済み	https://toho.repo.nii.ac.jp

進捗管理はスプレッドシート(Googleフォームと連携)

アイテム

雑誌掲載論文

Nationwide estimates of patient numbers and prevalence rates of ulcerative colitis and Crohn's disease in Japan in 2023

<https://toho.repo.nii.ac.jp/records/2016107>

名前 / ファイル	ライセンス	アクション
JG_Manuscript.pdf (604 KB) Download is available from 2026/9/2.		ダウンロード Information

15

出版社ポリシーに応じたエンバーゴ設定で登録



登録担当者の作業フロー(ポリシーの調査①)

- 英Jiscが提供するデータベース「Open Policy Finder」で、ジャーナルのポリシーを確認
 - 著者最終稿 (“Accepted” Manuscript)を非商用の機関リポジトリで公開できること
 - 公開可能な時期
 - ライセンス指定の有無
 - 謝辞・ステートメント

Search across open policy finder

Search for a journal, publisher or funder. For open access book policies, search for a publisher below.

Search all
▼

Search

Published

Option with associated OA fees, 12 months embargo & CC BY and 2 other licences

Show

Accepted

Option with multiple pre-requisites & 12 months embargo

Show

Submitted

Option with no embargo

Show

「Accepted」の項目を見る

Embargo
12 months

Locations

- Author's Homepage
- Institutional Website
- Non-Commercial Institutional Repository

Conditions

- Must be accompanied by set statement (see policy)
- Must link to publisher version

原稿の種類ごとに公開可否や条件が整理されている

「いつ」「どこで」「どんな条件で」



登録担当者の作業フロー(ポリシーの調査②)

- 「Open Policy Finder」のページ下部に、出版社Webページへのリンクがあるのであわせて確認
 - 著者最終稿 (Accepted Manuscript)を非商用の機関リポジトリで公開できること
 - 公開可能な時期
 - ライセンス指定の有無
 - 謝辞・ステートメント

Policy Links

[Copyright & Permissions ↗](#)

[Understanding copyright and the Journal Publishing Agreement ↗](#)

[Funding ↗](#)

[ACS AuthorChoice: License and Pricing Options ↗](#)

[ACS Open Access Licensing Options ↗](#)

[Prior Publication Policy \(Example\) ↗](#)

[American Chemical Society Journals Policies on preprints, scholarly sharing, & posting ↗](#)

出版社Webページへのリンク一覧

7. Posting Accepted and Published Works on Websites and Repositories: A digital file of the Accepted Work and/or the Published Work may be made publicly available on websites or repositories (e.g. the Author's personal website, preprint servers, university networks or primary employer's institutional websites, third party institutional or subject-based repositories, conference websites that feature presentations by the Author(s) based on the Accepted and/or the Published Work), and on Private Research Collaboration Groups under the following conditions:

- If the mandated public availability of the Accepted Manuscript is not sooner than 12 months after online publication of the Published Work, the Accepted Manuscript may be posted to the mandated website or repository. The following notice should be included at the time of posting, or the posting amended as appropriate: "This document is the Accepted Manuscript version of a Published Work that appeared in final form in [Journal Title], copyright © [include copyright notice from the published article] after peer review and technical editing by the publisher. To access the final edited and published work see [insert ACS Articles on Request author-directed link to Published Work, see ACS Articles on Request]."

14

謝辞・ステートメントが指定されている場合あり



登録担当者の作業フロー(研究データのリポジトリ登録)

- 申請から1週間を目途に対応

- ① 登録申請の受付 : Googleフォームで申請受付, 学内クラウドストレージで提出物確認
- ② 研究データの内容チェック : データ破損がないこと, 要配慮データを含んでいないこと
- ③ 研究データの登録 : JAIRO Cloudに個別登録 申請情報の転記
- ④ 申請者への完了通知 : 公開URL, 登録完了日 <テンプレートあり>

研究データ

FGF18に対するELISAシステムの開発に関するデータ

名前 / ファイル	ライセンス	アクション
 土屋 FGF18 根拠データSource Data Files.xlsx (431 KB)		ダウンロード Information
 土屋 FGF18 根拠データuncropped images og Figures.jpg (65 KB)		ダウンロード Information

Item type	*研究データ / Data or Dataset(1)
公開日	2025-04-03
タイトル	FGF18に対するELISAシステムの開発に関するデータ(ja)
言語	eng
資源タイプ	dataset
著者	中野, 裕康
内容記述	<p>内容記述タイプ</p> <p>内容記述</p> <p>Other</p> <p>本研究データは、下記の論文の根拠データをまとめたものである。</p> <p>A high-sensitivity ELISA for detection of human FGF18 in culture supernatants from tumor cell lines. Tsuchiya Y, Komazawa-Sakon S, Tanaka M, Kanokogi T, Moriwaki K, Akiba H, Yagita H, Okumura K, Entzinger KC, Okumura CJ, Maruyama T, Nakano H. Biochem Biophys Res Commun. 2023 Oct 1;675:71-77. doi: 10.1016/j.bbrc.2023.06.070. Epub 2023 Jul 7.</p>



雜感



雑感

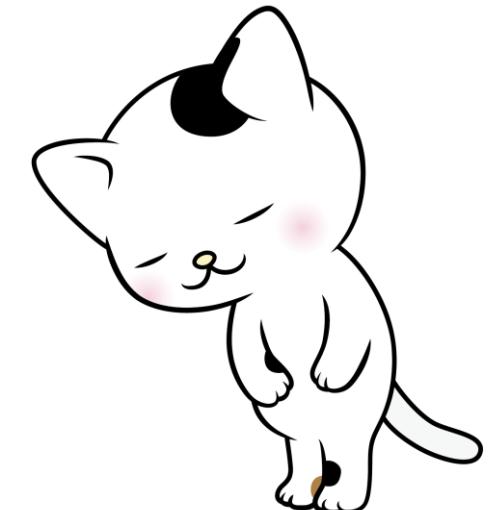
- 既存の学内資源を有効に活用できた
 - 本学リポジトリの「雑誌掲載論文」アイテムタイプ & インデックス
 - 従来は研究者から希望があれば登録, これまで年間の申請数が1~2件だった
 - 博士論文(医学研究科)のリポジトリ登録とポリシー調査マニュアル
 - 慣例として「学術雑誌に掲載された論文」を「博士論文」として公開している
 - 特にポリシー調査マニュアルは殆どそのまま転用できた
- 部門横断プロジェクトの立ち上げ・運営にあたり, 調整業務はすべて管理職が行っている(ありがたい)
 - 一担当者として, 運用フローの設計や実務担当者向けのマニュアル整備に注力できた
- 著者最終稿のリポジトリ公開にあたり, 大半が1年以上のエンバーゴ指定
 - 「即時OAが困難な理由」に吸収される事由だが, 「即時」「義務化」の語とのギャップを感じる



業務の参考にしたもの

【日本の指針】

- ・ 独立行政法人日本学術振興会 研究事業部「令和7年度における制度改正事項について」(2025.1)
https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken_g_2834/r7shiryou02.pdf
- ・ 「科学研究費助成事業(科研費)に関する説明会」のFAQ(2025.1)
https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken_g_2834/2025_seido_faq.pdf
- ・ 内閣府『「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」の実施にあたっての具体的方策について』(2024.8)
https://www8.cao.go.jp/cstp/hosaku_setsumei.pdf



【実務】

- ・ JPCOARコンテンツ流通促進作業部会「DOI・ライセンスに関するヒアリング調査について」(2022)
<https://doi.org/10.34477/0002000208>
- ・ JPCOAR ウェブマガジン「OA 義務化に備えてCCライセンスについて考える: 横浜国立大学附属図書館での実務経験から」(2024)
<https://magazine.jpcoar.org/news/0b3c3119-2899-4d2a-a73d-d86e6748fb85>

© 2024 Toho Univ. MC & SUNMEDIA

